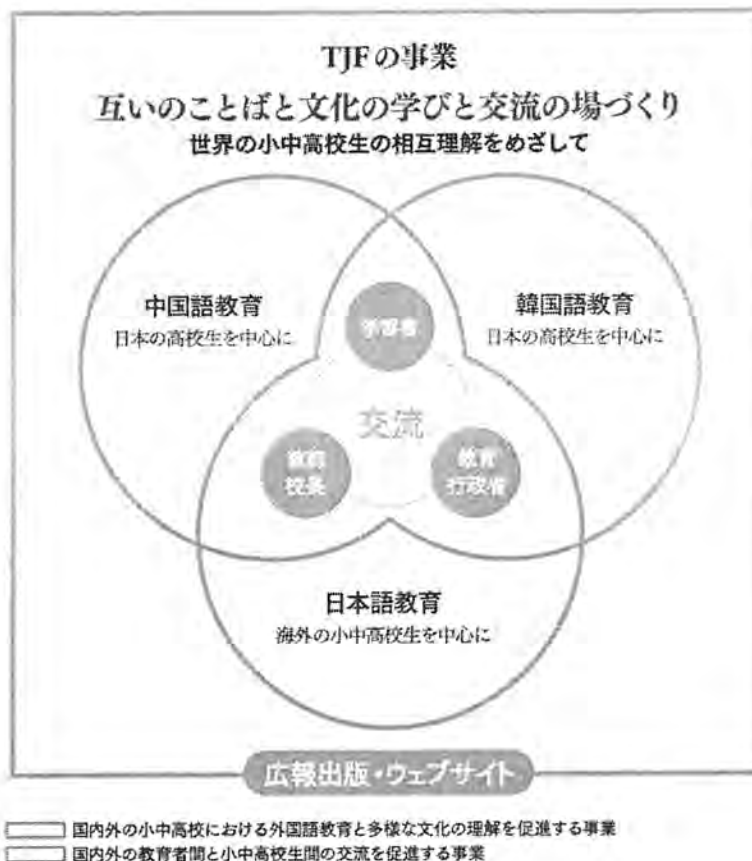


国際文化フォーラム(TJF)の事業

TJF は、国内外の学校、教師、行政機関と連携して、日本と海外の子どもたちが多様なことばと文化を学び交流できる場をつくっています。こうした場に参加する子どもたちが、学びと交流を通して、ともに 21 世紀を生きる力を身につけることをめざし、以下 4 つの公益目的事業を実施しています。

- (1) アジア太平洋地域の国々をはじめとする諸外国の児童及び青少年を対象とした日本語教育の基盤及び環境の整備とともに、日本の文化についての理解を促進する事業
- (2) 我が国の児童及び青少年を対象とした近隣地域のことばをはじめとする外国語教育の基盤及び環境の整備とともに、多様な文化についての理解を促進する事業
- (3) 互いのことばと文化を学ぶ世界の児童及び青少年並びに教育関係者の交流を促進する事業
- (4) この法人の事業目的及び事業内容を発信し、広く社会の理解と協力を得るための広報事業

《ことばと文化の学びと交流の場づくり》



2011 年度 事業計画

2011 年度は、公益財団法人として、5 つのプロジェクトを推進していきます。今まで以上にプロジェクト間、事業間の連携を図ることで、新法人 T.JF の存在感を高める努力をします。

■好朋友プロジェクトー中国における第二外国語としての日本語教育の促進ー

中国の初等中等教育では、近年の英語優勢の流れをうけ、第一外国語としての日本語教育は衰退の一途をたどっていました。大連市教育局が新たに導入した第二外国語としての日本語教育(以下、二外日本語教育)に、T.JF は、二外日本語教育用教材『好朋友』全 5 巻(2009 年秋完成)の制作や教師研修等の取り組みを通じて協力してきた結果、衰退していた大連市の中等教育における日本語教育が活性化しました。2010 年度は、大連市以外の遼寧省、さらに吉林省、黒龍江省の教育行政に働きかけた結果、三省あわせて 10 校で新たに『好朋友』を使った二外日本語教育が始まりました。

2011 年度は、『好朋友』の出版元である外語教学与研究出版社(北京)による教科書の市販化が予定されています。この機を捉え、二外日本語教育の定着とさらなる拡大をはかるとともに、その質的向上をめざして、以下の事業を実施します。

- ① 中国東北部で『好朋友』を使った二外日本語教育を実施する地域の教育行政者及び実施校の校長を日本に招聘し、日本理解及び日本語教育への関心を喚起し、実施校における日本語教育の定着を図ります。
- ② 『好朋友』の理念やコミュニケーション能力と多文化的資質の獲得という教育目標及び教授法をを共有するためのワークショップを中国側と共催するとともに、二外日本語教育実施校の日本語教師とともに好朋友を使った年間指導計画や授業案の開発・提供を行います。

■くりっくにっぽんプロジェクトー現代日本の若者の生活文化情報の多元的・多面的な発信ー

海外の小中高校の日本語学習者は、同世代の日本の若者に高い関心を持っているにもかかわらず、若者の素顔に関する情報発信はまだ不足しています。T.JF は、この課題を解決するため、海外の小中高校生が興味を持っているテーマを取り上げ、日本の文化というマクロの視点と、具体的な人物というミクロの視点からテーマを掘り下げた多元的・多面的な情報を発信しています。

2011 年度はこれまで発行してきた英文情報誌『Takarabako』と中文情報誌『ひだまり』を休刊し、情報発信をウェブに一本化します。日本語教育やウェブ制作専門家の助言を受けながら、現在のくりっくにっぽんを全面的にリニューアルし、ウェブサイトならではのコンテンツの提供方法で、日本語教師・学習者の興味・関心を喚起するサイトをめざします。

■学習のめやすプロジェクト —日本の高等学校の中国語と韓国語教育の促進—

日本の高校では現在、831校が中国語を、420校が韓国語を開講するなど、隣語(中国語と韓国語)は英語に次ぐ外国語になっています。しかしながら、制度的位置づけは脆弱で、学習指導要領の「外国語」では、英語に準ずるとしているだけで具体的な記述はありません。TJFは2006年より、高校や大学の教師と連携して「高等学校の中国語と韓国語の学習目標、内容、方法」を研究し、2007年には、「高等学校の中国語と韓国朝鮮語 学習のめやす(試行版)」を発行し全国の教育現場に配付しました。その後全国の教師からのフィードバックを得て、2009年度よりその完成版作成の作業に取り組んでいます。

2011年度は、6月を目処に「学習のめやす」専用のウェブサイトを開発し、完成版の内容を順次掲載するとともに、年内には冊子としてまとめて発行します。また、「学習のめやす」が提案する外国語教育の理念と目標、内容と方法についてより多くの人たちと共有し、日本の高校における隣語教育の内容の充実とステータスの向上をめざし、8月には中国語と韓国語を含む高校の外国語教師を対象とする研修を実施するとともに、2012年3月には、教育行政やメディア関係者をはじめ広く一般を対象とした、学習のめやす完成記念シンポジウム(25周年記念事業)を開催します。

■つながるプロジェクト —世界の子どもたちをつなげる交流学習モデルの開発—

TJFが制作・運営をしている、世界の中高生のための交流サイト「つながる」及びその他のICTツールを使った学校間交流、高校生が直接出会う交流プログラムの実施を通して、コミュニケーション力、協働する力、思考力、創造力、情報・メディア・ITリテラシーなど、21世紀に必要とされるスキルや能力の育成につながる交流学習モデルを開発します。モデルづくりは、国内外のICTを使った交流学習や日本語教育の専門家6名の参加を得て行います。

《学校間の交流》 日本国内の高校2校(大阪と沖縄)及び中国、台湾の高校の協力を得て、前述した21世紀スキルの育成をめざした交流実践に1年間取り組み、その成果を整理して一つのモデルとして提示し、広く教育関係者と共有します。また、学校教育における21世紀スキルの導入を推進しているアメリカウィスコンシン州メナーシャ市の教育関係者4名を日本に招聘し、日本の教育関係者も含めて情報交流を行い、今後の交流実践を広めていきます。

《高校生の直接交流》 TJFが2007年度から実施している、日本で中国語を学ぶ高校生のための「漢語橋:日本の高校生サマーキャンプ」と同じ時期、場所で、新たに中国で日本語を学ぶ高校生を対象とした「日本語を学ぶ中国の高校生のサマーキャンプ」を実施します。日中の高校生がコミュニケーションを深め、互いの価値観を調整しながら協働できる交流活動を通して、異なる言語・文化・社会の背景をもつ他者とコミュニケーションし協働する力の育成をめざします。本事業を通して直接交流プログラムのモデル開発に取り組めます。

■TJFの広報プロジェクト —ウェブサイトや広報資料を通じた情報発信—

2011年度は前述のプロジェクトごとのウェブサイトを含むTJFウェブサイトを全面的にリニューアルし、財団の理念や事業について一人でも多くの人に理解してもらうことで、賛同者、協力者の拡大を図っていきます。

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
A 海外の中小高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業				
1 中国東北三省教育代表団の日本招聘 (継続事業)	①10月初旬 (6日間程度) ②12月初旬 (6日間程度)	東京ほか	第二外国語としての日本語教育の拡大と浸透をめざし、東北三省を中心に『好朋友』を使った日本語教育を実施している中学校の校長および教育行政者を日本に招聘する。滞在中、中国語教育実施校や中国籍生徒在籍校を訪問するほか、教育関係者と意見交換などを行う。これらを通じて日本の教育・社会・文化への理解を深めてもらい、日本語教育への関心を喚起する。 ①吉林省教育代表団の日本招聘(教育行政者を中心に) ②東北三省教育代表団の日本招聘(校長を中心に)	協力:遼寧省基礎教育研究教師研修センター、吉林省教育学院、黒龍江省教育学院 助成:三菱UFJ国際財団(申請中)
2 『好朋友』を使った二外日本語教育の推進 (継続事業)	通年	東京ほか	『好朋友』(2009年秋、全5巻完成)を使った二外日本語教育を中国で推進するために、2011年度は次のことを行う。 ①市販化に向け、写真・イラストの掲載許可・教材原稿最終修正作業を行い、出版元である外研社に協力する。ウェブサイトの制作も行う。 ②好朋友で日本語を教えている経験豊かな教師5名を日本に招聘し、日本を体験してもらうとともに、好朋友のモデルカリキュラム及び授業実践例の完成に取り組んでもらう。完成したモデルカリキュラムや授業実践例をウェブ等に掲載し多くの日本語教師と共有することで、二外日本語教育の質的向上をめざす。	②好朋友モデルカリキュラム開発会合 協力:遼寧省基礎教育研究教師研修センター、吉林省教育学院、黒龍江省教育学院 助成:三菱UFJ国際財団(申請中)
3 遼寧省小学校日本語教科書『小学日語教材』の出版への協力 (継続事業)	通年	中国瀋陽市	遼寧省基礎教育研究教師研修センターによる小学校日本語教科書『小学日語教材』(B5判/70頁/カラー、全6冊、各冊テープ2本付)の制作に協力。2010年度は第3～5冊の印刷を行った。当初、2010年度に音声テープもすべて制作する予定だったが、資金が不足していたため録音のみを実施。2011年度は、テープに替え安価なCDを制作する。TJFはこの制作費用の一部を負担する。	主催:遼寧省基礎教育研究教師研修センター 助成:尚友倶楽部(予定) 協力:TJF
4 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにつぼん」の制作・運営 (継続事業)	通年	TJFサイト	日本語教育に携わる人や日本に興味をもつ人を対象に、現代日本を文章と写真で紹介するとともに、それらの記事を活用した日本語のクラスアイデアを日英中の3言語で紹介。これまでは日本語教師向け情報誌『Takarabako』『ひだまり』の記事を中心に掲載してきたが、情報誌を休刊し、日本に関する情報発信を「くりっくにつぼん」に一本化する。2011年度は、12月を目処に全面的なリニューアルを行い、日本語教師だけでなく、海外の日本語学習者が見ても楽しめるような内容にする。また、動画を積極的に配信するほか、ブログツールを導入するなど、ウェブサイトならではの情報の提示の仕方を工夫する。内容を充実させるために、「つながる」と同じメンバーでアドバイザーグループをつくり、コンテンツについてアドバイスをうけるほか、日本語の授業で活用するためのヒントをもらう。	
5 海外の日本語教師向け情報誌の発行とサイトの運営 (継続事業)	6月、9月	英語圏、中国、TJFサイト	英文情報誌『Takarabako』、中文情報誌『ひだまり』の発行(A4判、4色、8頁)。発行部数は、それぞれ6,000部、1,900部。主に海外の中小高校の日本語教育現場に送付するとともに、PDF版をTJFサイトに掲載してきた。毎号海外の中小高校生が関心をもつ話題を取り上げ、現代日本事情・文化と、その話題に関わる日本の中小高校生を紹介。これまで年4回発行してきたが、近年のインターネットの普及や技術の進歩により、ウェブサイトでの情報提供方法の可能性が広がったことで、両誌とも9月発行の号をもって休刊し、ウェブサイトでの情報提供に一本化する。6月号は「お弁当」を取り上げ、最終号は新しいくりっくにつぼんの内容について紹介する。	
6 二外日本語教師研修(好朋友ワークショップ)の共催 (継続事業)	9/24-25(2日間)	中国大連市	東北三省で『好朋友』を使って日本語を教えている、あるいは教える予定のある教師を対象に、遼寧省基礎教育研究教師研修センターが主催する「好朋友ワークショップ」に共催団体として協力する。ワークショップでは、二外日本語の意義や本教材の理念を共有するとともに、二外日本語の効果的な教授法の習得をめざす。	主催:遼寧省基礎教育研究教師研修センター 共催:吉林省教育学院・黒龍江省教育学院、TJF 助成:三菱UFJ国際財団(申請中)

事業名		実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
7	米国ウイスコンシン州メナーシャ地区日本語教育支援(新規事業、25周年記念事業)	7月以降	米国メナーシャ市	米国の初等中等教育における日本語教育の拠点地域の存続と発展を図るため、ウイスコンシン州メナーシャ市のメナーシャ合同学区の21世紀のスキルとしての日本語教育プログラムの運営に対し、今後3年間にわたり、講談社の特別寄附金として年額200万円を寄贈する。7月にメナーシャで行われる日本の太鼓の公演に合わせ寄付金贈呈式を行い、TJFの寄附金寄贈プログラムおよび同地域の日本語教育支持の広報効果を高める。	特別寄付:講談社
8	日本語教育・日本理解事業に関するネットワーク活動(継続事業)	通年	埼玉、鳥取ほか	日本語教育学会春季大会(5月・埼玉)・秋季大会(10月・鳥取)、日本語教育国際研究大会(ICJLE、8月・天津)をはじめ、日本語教育関連の大会・研究会・会合に参加し、関係者とのネットワークを図る。	
B 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業					
1	日本の教育代表団の中国派遣(継続事業)	11/22-26	中国ハルビン市	高校中国語教育の定着と拡大のためには、各都道府県の教育行政者や学校の管理職の理解と支持が必要である。これら関係者の中国語教育に対する関心を喚起するため、2008年度から中国国家漢弁の主催で、中国への派遣事業を企画・実施し、2010年度までに42名を派遣した。2010年度から向こう三年の実施については、国家漢弁と協議書を交わしている。2011年度も引き続き文部科学省の協力を得て、参加者を全国公募するとともに、派遣先の黒龍江省およびハルビン市と友好都市である北海道や新潟県を重点的に広報を行う。代表団は中国滞在中、教育行政者、教師との懇談や生徒との交流などを行い、参加者の中国に対する理解を深めてもらう。往復国際航空運賃は参加者負担。現地での滞在費は中国政府負担。	主催:中国国家漢弁 実施:TJF 協力:文部科学省(予定) 後援:外務省(予定)
2	『高等学校からの中国語と韓国語の学習のめやす』の発行とサイトの制作・運営(継続事業)	通年	東京	2006年度から2007年度にかけて文部科学省の委嘱事業として、高校における中国語と韓国語教育の目標・内容・方法を研究し、2007年3月に『高等学校の中国語と韓国朝鮮語 学習のめやす(試行版)』を発表した。その後、研修等を通じて、全国の教師と「学習のめやす」の共有を図るとともにフィードバックを得た。2009年度に新たなプロジェクトチームを立ち上げ、「学習のめやす」完成版の作成作業を行っている。2011年度は6月を目処にウェブサイトで漸次公開するとともに、12月に冊子の発行する。完成版の公開に先立ち、6月には、メディア関係者を対象に、制作発表を行う。	助成:東京倶楽部 かめのり財団(予定)
3	中国語・韓国語教育関連情報提供サイト「Ringo」の制作・運営(新規事業)	通年	TJFサイト	これまで情報誌『小溪』(1999-2010)『隣語通信』(2009-2010)およびウェブサイト「小溪」「隣語」を通じて、高校の中国語教育、韓国語教育についての情報発信を行ってきたが、「学習のめやす」完成版の発行にともない、二つの言語教育関連のサイトを一つのウェブサイトをもとに「Ringo」を4月末を目処に開設し、情報発信を行う。また、2011年2月にスタートした「Ringoメルマガ」を通じて、TJFが主催、協力、後援する中国語教育・韓国語教育関連事業の情報や、「Ringo」ウェブサイトの更新情報などを配信し、タイムリーで効率的な情報提供をめざす。	
4	高等学校中国語韓国語教師研修の共催(継続事業)	7/30-8/3	東京	TJFが開発している「学習のめやす」の基盤となっている外国語教育の理論と考え方を全国の中国語、韓国語及びその他の外国語教師と共有し、活用してもらうことを目標とする研修の3回目を実施。過去2回に延べ192名が受講した。2011年度は、前半2日間は、初参加者向けに、當作靖彦氏(米国カリフォルニア大学サンディエゴ校教授)による、外国語教育の目標設定・内容・方法に関する考え方や、学習者がコミュニケーション能力を獲得するための授業のあり方に関する講義を実施。リピーターは、授業分析と自身の授業の振り返りを行う。後半3日間は、中国語と韓国語の教師を対象に、教科書を使った「学習のめやす」の考え方を取り入れた授業づくりにグループで取り組む。受講料は参加者負担。遠方からの参加者のための宿泊を定員を設けて提供する。	共催:桜美林大学 特別共催:在日中国大使館教育処、駐日韓国大使館韓国文化院、駐日韓国大使館韓国文化院世宗学堂(申請中) 後援:文部科学省(予定)

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
5 高等学校中国語教師研修の共催(継続事業)	7/24-8/5	中国長春市	中国教育部、文部科学省、中国国家漢弁、TJFの共催で、2004年から5ヵ年計画で始まった高校中国語教師の中国研修。中国語のコミュニケーション能力の向上と教授法習得、中国文化理解を深めることをめざす。第5回終了後もニーズがあったことから、吉林大学と協議の上、継続することを決定。2010年度から向こう三ヵ年の実施について、TJFと中国国家漢弁と協議書を交わしている。定員20名を全国公募の予定。現地集合・解散、往復交通費は参加者負担。現地での研修費用、滞在費は中国政府負担。2011年度は参加者を増やすために、ウェブサイトやメルマガ等を利用して積極的に広報する。	主催:中国教育部、文部科学省、中国国家漢弁、TJF 助成:在日中国大使館教育処(申請中)
6 学習のめやす完成記念シンポジウムの開催(新規事業、25周年記念事業)	2012/03	東京	「学習のめやす」完成版冊子の発行とウェブサイトでの公開を記念して、シンポジウムを開催する。シンポジウムでは、「学習のめやす」がめざす外国語教育の理念と目標、内容と方法について参加者と共有するとともに、日本の高校における外国語教育のあり方、第二外国語科目設置の可能性などについて、教育行政者や教育専門家、研究者、現場教員と意見交換を行う。	助成:かめのり財団(予定)
7 外国語教育・多文化理解事業に関するネットワーク活動(継続事業)	通年	日本国内各地	TJFが、日本の高等学校における隣語教育を推進していくために必要なネットワークを築くために、高等学校中国語教育研究会(高中研)、中国語教育学会、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(JAKEHS)、朝鮮語教育研究会など、国内の中国語や韓国語をはじめとする外国語教育関連の研究会や会合等に参加して情報交流を行う。 また、2011年度も引き続き日中友好協会主催の「全日本中国語スピーチコンテスト」に国際文化フォーラム賞と副賞を授与するほか、在日中国大使館教育処や駐大阪中国総領事館教育室主催の「漢語橋世界中生中国語コンテスト」の予選大会や、「話してみよう韓国語」地方大会高校の部、高等学校中国語教育研究会各支部主催の学習発表会に対して後援、協力を行う。	
C 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業				
1 世界の中高校生の交流プロジェクト「つながる」の実施(継続事業)	通年	TJFサイト	「つながる」はSNSを使った交流サイト。国際交流に関心のある国内外の中高校生、日本で外国語を学習している中高校生、海外で日本語を学習している中高校生など、約20カ国から1,500名が参加している。中高校生たちが安全な環境で参加できるよう、プライバシーの保護やセキュリティに十分な配慮をしている。 参加者は、エッセイやコミュニティなどのコーナーに、複数の言語で投稿したり画像を発信するなどして交流している。2011年度は、国内外のICT(Information and Communication Technology)を使った交流学習や日本語教育の専門家6名のアドバイザーグループを結成し(「くりっくにっぽん」と共通)、適宜、助言や支援をうける。さらに、アドバイザーと日本の高校2校程度(大阪と沖縄の高校を予定)の協力を得て、21世紀スキルの育成をめざした交流実践に1年間取り組み、その成果を整理して広く教育関係者と共有する。 また、参加者を維持・拡大するために、引き続きTJFの出版物やウェブサイト、メーリングリスト、メール等を通じて、国内外の教師・関係者への広報を行う。	助成:尚友倶楽部(予定)
2 日中の高校生サマーキャンプの実施(継続事業)	7/25-8/3	中国長春市	2007年度から、中国国家漢弁主催の「漢語橋高校生サマーキャンプ」の一環として、TJFは「漢語橋:日本の高校生サマーキャンプ」を企画・実施し、中国語を学ぶ日本の高校生92名と引率教師・事務局8名を含む計100名を中国に派遣してきた。「漢語橋」では、コミュニケーションを重視した中国語の研修と現地の同世代との交流を行っている。 2011年度は引き続き「漢語橋」の5回目を中国吉林省長春市で実施するとともに、同時期に同じ場所で日本語を学ぶ中国の高校生のためのサマーキャンプを吉林省教育学院と共催する。二つのサマーキャンプの参加者は、協働活動を実施する中で、異なる言語・文化・社会の背景をもつ他者とコミュニケーションし協働する力の養成をめざす。 参加する日本の高校生は往復国際運賃を負担。現地での滞在費は中国政府負担。	●日本の高校生サマーキャンプ 主催:中国国家漢弁 実施:TJF 助成:在日中国大使館教育処 後援:在中国日本国大使館(予定) 協力:文部科学省(予定) ●中国の高校生サマーキャンプ 主催:吉林省教育学院・TJF 助成:双日国際交流財団(申請中) 後援:在中国日本国大使館(予定) 協力:国際協力機構北京事務所(予定)

事業名		実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
3	交流事業に関するネットワーク活動 (継続事業)	通年	日本国内各地	TJFが交流事業を推進していくためには、外国語教育、国際理解教育、異文化間教育、ICT交流等の分野における国内外の教師や専門家とのネットワークが重要である。海外に日本語教師として派遣された日本の小中高校教師を中心会員とした国際教育ネットワーク/REX-NETの活動に協力するほか、異文化間教育学会全国大会、日本国際理解教育学会研究大会をはじめとする各種の研究会やセミナーなどに参加し関係者とのネットワークを構築する。	
D TJF広報活動					
1	機関誌『国際文化フォーラム通信』の発行とサイトの運営 (継続事業)	4月、7月、10月、1月	日本国内、海外、TJFサイト	TJFの機関誌(A4判、2色、16頁、年4回、5,000部)。引き続き、事業に関連するテーマで特集を構成する。第90号:交流学習、第91号:学習のめやす、第92号:ICT活用例、第93号:日中の高校生サマーキャンプを取り上げる。2011年度は公益財団法人としてのスタートにあわせ、14年ぶりにデザインを刷新する。	
2	TJFの事業報告と広報資料の作成 (継続事業)	事業報告書日:A4判、36ページ、一部カラー、8月発行 英:A4判、8ページ、一部カラー、9月発行 中・韓:A4判、8ページ、一部カラー、10月発行	日本国内、TJFサイト	日本語版『事業報告』では、2010年度の事業全体の概観と各事業についての詳細な報告をまとめている。700部印刷し、関係者に配付する。英語・中国語・韓国語版は事業全体の概観と主要データで構成し、100部印刷するとともに、四言語ともウェブサイトに掲載する。2010年度まで作成していた三つ折リーフレットに替え、事業報告を広報資料として活用する。 財団の広報資料として2010年度に新たに制作したカラーパンフレット(日本語版)を2,000部印刷し、積極的に活用する。同じく2010年度に編集した新書判広報資料(700部)も有効に活用し、財団の理念や事業をより多くの人に伝える。	
3	TJFのウェブサイトの運営 (継続事業)	通年	TJFサイト	ユーザーがより使いやすいサイトにするべく、各事業対象のユーザーにとって必要な情報を1か所にまとめるほか、財団の紹介についてもよりわかりやすい提示ができるよう全面的なリニューアルを行う。また、より効率的な広報活動を行うために、ウェブサイト関連のセミナーをはじめ、広報関連のセミナーなどにも参加する。	